

愛知の医療ツーリズム推進について

資料1

1. 事業概要

既存の医療の受入余力を活用し、地域医療に影響を及ぼさない範囲において、本県の優れた医療技術の提供による医療の国際化の推進を図り、併せて訪日外国人の本県への誘客を促進する。

- ・2016年5月設立の「あいち医療ツーリズム研究会」から提言。
- ・2017年2月「あいち医療ツーリズム推進協議会」を立ち上げ、2017年度から、各種取組を実施。

○施策の実施状況

年度	取組状況
2016	・あいち医療ツーリズム研究会から提言 ・あいち医療ツーリズム推進協議会(以降、毎年開催)
2017	・ 国際医療コーディネーター※の育成研修 [参加者 25 名] ※外国人患者の受入に特化したサービスを提供する事業者 ・シンポジウムの開催[申込 111 名]
2018	・ 国際医療旅行展覧会(中国 北京)ブース出展 (PR動画(英語・中国語)作成) ・国際医療コーディネーターの育成研修[参加者 23 名]
2019	・ 国際医療旅行展覧会(中国 北京)ブース出展 ・国際医療コーディネーターの育成研修[参加者 29 名] ・外国人患者受入れ体制整備のためのアドバイザー派遣
2020	・国際医療コーディネーターの育成研修[参加者 23 名]
2021	・ 医療ツーリズム実務講座 [35 名参加] ・ガイドラインの作成(入門編) [県内約 300 病院へデータで配布]
2022	・ 海外向けPR動画作成 ・ガイドラインの作成(発展編) [県内約 300 病院へデータで配布]
2023	・ 海外向け多言語対応ポータルサイト「愛知の医療ツーリズムナビ」制作 国際医療コーディネーターや外国人患者に向けて、日本語・英語・中国語の3か国語でサイトを作成。 [187 病院へ掲載の意向を聞き取り、6 病院掲載]
2024	・ 海外向け多言語ポータルサイト「愛知の医療ツーリズムナビ」の充実 掲載医療機関の増加、ベトナム語の追加

2. 本県の現状について

○2023年度に医療ツーリズムで訪れた外国人患者の受入れ実績について

医療ツーリズムの現状及び推進にあたっての課題について、前回(昨年度)の調査以降の変化等を明らかにするため、「外国人患者の受入れ状況に関するアンケート」を実施。

(1) 調査期間

2024年4月19日から5月31日まで(予定)

(2) 対象

県内 316 病院のほか、外国人患者を受入れる拠点的な医療機関(6診療所、25 歯科診療所)

(3) 結果

※5月10日時点で回答のあった85医療機関分を集計

外国人患者受入実績のみ抜粋

検診分野

・2023年度受入れ実績のあった病院 **5病院**

・居住国別受入れ人数(カッコ内は2022年度実績) (人)

	中国	ベトナム	カザフスタン	フィリピン	タイ	その他	合計
受入れ人数	93 (16)	9 (7)	6 (0)	1 (1)	0 (5)	0 (0)	109 (29)

治療分野

・2023年度受入れ実績のあった病院 **6病院**

・居住国別受入れ人数(カッコ内は2022年度実績) (人)

	中国	ベトナム	フィリピン	アメリカ	モンゴル	その他	合計
受入れ人数	246 (78)	31 (13)	4 (0)	4 (2)	2 (1)	18 (3)	305 (97)

実績のある病院(公開可と回答のあった病院)

- ・社会医療法人大雄会 大雄会第一病院
- ・偕行会グループ系列病院
- ・JCHO 中京病院
- ・藤田医科大学病院
- ・名古屋大学医学部附属病院

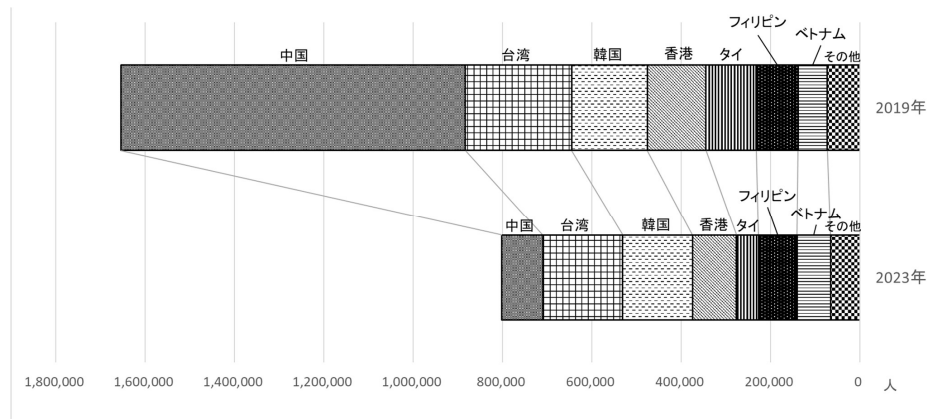
○ コロナ前と現在の中部国際空港における外国人入国状況

<主な空港の年別外国人入国者数>

	全国	新千歳	成田	羽田	中部	関空	福岡	那覇
2019年 (人)	31,187,179	1,732,437	8,978,773	4,288,078	1,776,454	8,378,039	2,141,956	1,650,148
2023年 (人)	25,830,810	1,229,709	8,036,214	4,657,583	838,842	6,525,181	2,677,005	807,685
比率 (%)	82.83	70.98	89.50	108.62	47.22	77.88	124.98	48.95

【出典: 出入国在留管理庁 出入国管理統計 統計表】

<中部国際空港におけるアジアからの国別入国者数>



【出典: 出入国在留管理庁 出入国管理統計 統計表】

○ 中部国際空港の国際線就航状況の推移 (便/週)

	全体	中国							香港
		上海	北京	天津	大連	南京	深圳	その他	
2020年	42都市	24都市							
1月	482便	211便	56便	14便	14便	7便	7便	7便	106便
2021年	4都市								
4月	12便	ゼロコロナ政策により渡航制限							0便
2022年	8都市								
4月	22便	ゼロコロナ政策により渡航制限							0便
2023年	12都市								
4月	130便								12便
2024年	19都市	6都市							
4月	275便 (295)	72便 (90)	50便 (68)	4便	2便	2便	7便	7便	32便

※各月1日時点の数。

※カッコ内は、4月27日からの増便を反映した数。

【出典: 中部国際空港株式会社提供資料】

<中部国際空港株式会社からのコメント>

○ 中国線は、5月1日時点で6都市90便運航し、**コロナ前の約4割程度回復**している。

○ 特に、富裕層が多い**上海線**は現在週68便運航しており、**コロナ前を超えている**。

○ 今後は、グランドハンドリング※等の受入環境の課題はあるが、**(中国の) 地方都市を中心に徐々に回復する見込み**である。

※空港で行われる地上支援作業の総称

アムタック
○AMTACから聴取したポストコロナの医療ツーリズムの動向

AMTAC(Accredited Medical Travel Assistance Company)とは、医療国際展開タスクフォース/インバウンド・ワーキンググループ(内閣府)にて策定されたガイドラインの基準を満たし、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN (MEJ)から認証を受けた医療渡航支援企業に与えられる総称で、現在、6つの認証企業(正認証3、準認証3)がある。

県から、正認証を受ける3社に個別に聞き取った結果は、以下のとおり。

質問項目	回答
主な外国人患者動向について	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度は2019年度と同じくらいか、やや増えつつあるように思う。全体の約60%を中国が占めている。ベトナムやインドネシア、モンゴルなどからの問合せが増えてきている。 ・中国がまだまだメインターゲットであるが、そのほかにベトナム、インドネシア、カンボジアなどからも問合せが来ている。
受入れ分野について	<ul style="list-style-type: none"> ・検診分野は、立地に左右され、首都圏での実施が多い。一方で、治療分野においては病院の立地条件は大きく影響しない。治療分野は、大体半分以上が中国からとなっている。 ・以前は、検診と治療が概ね1:1程度であったが、今は、検診が戻ってきていない。
海外PRについて	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で医療ツーリズムを行っていることをPRする方法が難しい。現状の主なターゲットである中国やベトナムは、大々的な広告よりも、SNSや口コミで広まっていく印象がある。 ・医療機関ならではの特色をPRする必要がある。あまり知られていない疾患であっても、その治療に特化して日本全国から患者が集まってくるクリニックであれば強いアピールになるし、実際に海外からの受入れに繋がっていくと思う。また、一般的に再生医療の分野は近年関心が高く、問い合わせも増えてきている。

○ポータルサイトの運用状況について

「愛知の医療ツーリズムナビ」

- ・2024年2月7日から運用開始
- ・日本語・中国語・英語に対応
- ・サイトを通じて本県の認知度向上を図る。



サイト	「愛知の医療ツーリズムナビ」 https://medicaltourism.pref.aichi.jp/
広告	中国の50媒体でニュースリリースを実施(2月20日～3月中旬にかけ順次) 国内向けバナー広告の表示(2月13日～3月11日)
掲載医療機関	6医療機関
サイト閲覧状況	<p><Google Analytics による分析> 1,027名</p> <p>サイトアクセス数(2024年2月7日～4月16日)</p> <p>ユーザー国別: 日本776名、ラトビア47名、アメリカ32名、 カナダ16名、フィンランド15名、中国3名、他138名</p> <p><中国版分析サイト Matomo による分析> 50名</p> <p>サイトアクセス数(2024年2月7日～4月18日)</p> <p>ユーザー国別: 日本42名、中国6名、シンガポール1名、香港1名</p>